

- (1) 平成 18 年 6 月以前に精神科医療機関に入院し、平成 20 年 6 月末時点で入院が継続している患者数を A、
- (2) 平成 18 年 6 月以前に精神科医療機関に入院し、平成 19 年 7 月から平成 20 年 6 月までの間に退院した患者数を B として、

$$\text{退院率 (\%)} = (B/A+B) \times 100$$

得られた退院率と以下の指標の関係を調査する。

各医療機関別、都道府県別、設置主体別、診断名別、入院期間別

また、長期入院者の退院後の状況について以下の情報を得る。

通院状況、住居、同居者、生活保護受給、社会復帰施設利用、デイケア利用

再発の有無（最大 1 年間の経過観察）

このような内容の調査としてアンケート票を設計した（資料 3 参照）。

アンケート調査は郵送とし、平成 20 年 7 月頃実施を見込んでいる。郵送先については、平成 19 年度のように全医療機関に一律に送付するのではなく、全国の状況を正しく反映できるように医療機関を抽出した上で行うこととした。

また、事前に倫理審査を受審し、個人情報の保護などについて遺漏のないようにする。また、結果の処理等については平成 19 年度に施行した調査に準じることとした。

D. 考察

- 1) 平成 19 年度に行ったアンケート調査（「精神科治療（特に入院治療）のあり方に対するアンケート調査」）について

本調査は、改革ビジョンの課題を達成する上で、診断名、入院時の状態像別に平均残存率を得るなどして、具体的な対策に資

することを目指して行われたものである。しかし、回収率は、約 12.5%と高いとは言えない数字であった。近年、こうしたアンケートの回収率は低下傾向にあることが経験されているが、来年度に退院率などに関する調査の実施を予定しており、回答率が低かった理由を明らかにすることは是非必要であると考えた。対象とした医療機関宛には、A3 版表裏印刷（4 ページ）調査報告書概要版を作成し、郵送することとしたが、その際、本調査に関する意見を書くための葉書を同封し、医療機関から平成 19 年度のアンケートの内容、形式、実施方法などに関する意見を求めることとした。その結果については、次年度の報告書で詳細に報告したい。

- 2) アンケートの結果の妥当性について

今回の調査では、回答した医療機関の数が多くなく、回収された患者個票の数も 1765 と少なかった。このため、データのゆがみの有無を確認するために、回答した医療機関としなかった医療機関について比較検討したが、病棟の届出に差があった他、病床規模などには差が見られなかった。しかし、今回得られた結果から何らかの結論を導いたり、推論を行ったりする際には、慎重を期する必要がある。

- 3) 平均在院期間と平均残存率に関する調査結果

今回の調査の結果、診断名や入院形態、あるいは医療機関の設置主体ごとに平均在院期間や平均残存率がえられた。630 調査では都道府県単位で平均在院期間や平均残存率が示されるが、診断名や入院形態ごとには資料がない。今回の調査の結果、診断名や入院形態によってこれらの指標が有意

に異なることが示された。実際には、認知症で特に平均在院期間が長く、平均残存率も高くなっていた。

認知症患者の入院が長期化する理由として、症状が残存していることや生活能力が回復しないことなどが挙げられた。しかし、認知症の病態を考えると、入院治療の目標はせん妄や周辺症状であり、原則として記憶障害や判断能力などの中核症状が改善することはないので、どこで入院治療を切り上げるか見極め、退院に向けた受け皿を整備するなどの対応を強化する必要があると思われる。

また、それ以外の精神疾患についても、平均残存率は、改革ビジョンが掲げる目標値よりかなり高い値であった。今回の調査では、十分な回収率がえられなかったことなどの課題があるので、この数字が即ち改革の遅滞を意味するものと考えことは出来ない。しかし、目標値を達成しようとするれば、他の精神疾患に比較して平均在院期間が長く、また平均残存率が高くなっていた統合失調症の入院期間を短縮することが鍵となることが明らかである。その中でも、措置入院や医療保護入院した人の入院期間が、任意入院に比較して有意に長期化することから、これらの入院形態で入院した人の退院促進を積極的に図る必要がある。設置主体別に見ると、国立系の医療機関と医療法人にこうした患者が比較的多く在院していたので、これらの医療機関において地域の特性も踏まえた退院促進のプログラムを強化することが必要である。

「我が国の精神保健福祉」には、都道府県ごとに、最近の平均在院期間の推移が掲載されるようになった（資料4は、平成18年度版 pp.822-823）。この表を見ると平均在院期間は、未だ概して改革ビジョンが掲げるよりも高い値を示しているところが多い。

しかし、中には長野、島根、岡山のように既にほぼ目標値を達成しているところもある。今回の調査結果で浮かび上がった認知症患者や統合失調症の入院治療について、こうした県でどのような医療が行われているのか、調査することも必要である。

4) 退院率に関するアンケート調査

本年度は、退院率に関するアンケート調査の帳票類を整えた。その過程で桜ヶ丘記念病院の長期入院患者の退院状況を検討する機会を得た。その結果、同院では、1年以上入院した後退院した患者は、897人の入院患者のうち、1割にも満たない78人であった。一般にも、1年以上入院した患者が自宅や社会復帰施設などへ退院する比率はあまり高くないといわれている。例えば、大阪府、大阪市、堺市が行った調査（※）でも、1年以上入院した後、1年間に退院した人の比率は、11.3%であったという。しかも、退院後社会生活を送る場合の他、転院や死亡などもあり、いわゆる地域移行の事例はさらに少ないのが現状である。改革ビジョンにおいては、退院率を29%以上とすることが目指されているが、こうした状況を勘案し、調査では実際に地域での生活が出来た事例の比率や、退院を可能にした背景要因や援助過程を明らかにすることが必要である。こうした点を明らかにするために、アンケート調査を企画し、アンケート帳票案を作成した。平成19年度に行ったアンケート調査についての医療機関からのフィードバックを待って、回収率を一定レベルに上げる工夫を行った上で実施にこぎ着けるようにすることが課題である。

※大阪府・大阪市・堺市：平成18年度精神科在院患者・退院患者調査結果報告書一

長期入院者の退院促進のために－．平成
19年7月．http://www.iph.pref.osaka.jp/kokoro/siryuu/zaiin_chousa18.pdf

E. まとめ

全国の精神科医療機関を対象として行ったアンケート調査の結果などを報告した。調査の結果、平均残存率は、診断名や入院形態ごとに有意に異なっていることが分かった。今回の調査の結果から、改革ビジョンの目標値を達成するためには、認知症と統合失調症患者の入院期間を短縮する方策を検討することが必要と考えた。また、来年度実施予定の退院率に関する予備的調査の結果を報告した。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

表 1 回答のあった医療機関所在地

		度数	パーセント
有効	北海道	11	6.0
	東北	21	11.5
	北関東	11	6.0
	南関東	28	15.3
	中部	32	17.5
	近畿	16	8.7
	中四国	28	15.3
	九州	36	19.7
	合計	183	100.0

表 2 回答のあった医療機関の設置主体

		度数	パーセント
有効	大学病院	13	7.1
	国立系	8	4.4
	都道府県立	20	10.9
	他の公立	14	7.7
	医療法人	116	63.4
	個人病院	3	1.6
	他の法人	9	4.9
	合計	183	100.0

表 3 回答のあった医療機関と診断名

解析用病院分類と主たる精神疾患のクロス表

			主たる精神疾患					合計
			統合失調症	うつ病	躁うつ病	認知症	アルコール	
解析用病院分類	大学病院	度数	39	19	9	9	3	79
		解析用病院分類の%	49.4%	24.1%	11.4%	11.4%	3.8%	100.0%
国立系	度数	39	7	4	6	8	64	
	解析用病院分類の%	60.9%	10.9%	6.3%	9.4%	12.5%	100.0%	
都道府県立	度数	119	17	17	20	12	185	
	解析用病院分類の%	64.3%	9.2%	9.2%	10.8%	6.5%	100.0%	
他の公立	度数	48	19	11	13	5	96	
	解析用病院分類の%	50.0%	19.8%	11.5%	13.5%	5.2%	100.0%	
医療法人	度数	497	100	80	167	80	924	
	解析用病院分類の%	53.8%	10.8%	8.7%	18.1%	8.7%	100.0%	
合計	度数	742	162	121	215	108	1348	
	解析用病院分類の%	55.0%	12.0%	9.0%	15.9%	8.0%	100.0%	

表4 入院形態

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 措置入院	171	9.7	9.7
医療保護入院	765	43.3	43.3
任意入院	829	47.0	47.0
合計	1765	100.0	100.0

表5 性別

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 男	837	47.4	48.2
女	898	50.9	51.8
合計	1735	98.3	100.0
欠損値 システム欠損値	30	1.7	
合計	1765	100.0	

表6 貴院精神科受診歴

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 無	535	30.3	30.4
有	1220	69.1	69.4
不明	2	.1	.1
合計	1757	99.5	100.0
欠損値 システム欠損値	8	.5	
合計	1765	100.0	

表7 他院精神科受診歴

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 無	508	28.8	29.7
有	1106	62.7	64.8
不明	94	5.3	5.5
合計	1708	96.8	100.0
欠損値 システム欠損値	57	3.2	
合計	1765	100.0	

表 8 精神科入院歴

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	無	532	30.1	30.2
	有	1207	68.4	68.5
	不明	22	1.2	1.2
	合計	1761	99.8	100.0
欠損値	システム欠損値	4	.2	
合計		1765	100.0	

表 9 入院直前の生活

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	家族と同居	1089	61.7	62.1
	単身生活	295	16.7	16.8
	施設等入所	124	7.0	7.1
	他院精神科入院	76	4.3	4.3
	他科入院	150	8.5	8.5
	その他	21	1.2	1.2
	合計	1755	99.4	100.0
欠損値	システム欠損値	10	.6	
合計		1765	100.0	

表 10 入院直前の精神科受診

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	無	357	20.2	20.4
	貴院通院	880	49.9	50.4
	他院通院	339	19.2	19.4
	他院入院	140	7.9	8.0
	不明	31	1.8	1.8
	合計	1747	99.0	100.0
欠損値	特定不能	4	.2	
	システム欠損値	14	.8	
	合計	18	1.0	
合計		1765	100.0	

表 11 入院時病棟

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	救急料	66	3.7	3.8
	急性期	324	18.4	18.5
	精神一般	1078	61.1	61.5
	精神療養	150	8.5	8.6
	認知症	110	6.2	6.3
	その他	24	1.4	1.4
	合計	1752	99.3	100.0
欠損値	特定不能	3	.2	
	システム欠損値	10	.6	
	合計	13	.7	
合計		1765	100.0	

表 12 主たる精神疾患

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	統合失調症	797	45.2	45.8
	うつ病	173	9.8	9.9
	躁うつ病	129	7.3	7.4
	認知症	225	12.7	12.9
	アルコール	115	6.5	6.6
	その他	300	17.0	17.3
	合計	1739	98.5	100.0
欠損値	特定不能	18	1.0	
	システム欠損値	8	.5	
	合計	26	1.5	
合計		1765	100.0	

表 13 退院直後の生活

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 1年以上在院	265	15.0	15.1
家族と同居	913	51.7	52.2
単身生活	200	11.3	11.4
施設等入所	150	8.5	8.6
他院精神科入院	69	3.9	3.9
他科入院	113	6.4	6.5
死亡	24	1.4	1.4
その他	16	.9	.9
合計	1750	99.2	100.0
欠損値 システム欠損値	15	.8	
合計	1765	100.0	

表 14 退院直後の通院先

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 1年以上在院	265	15.0	15.6
貴院	964	54.6	56.7
前医他院	155	8.8	9.1
その他	158	9.0	9.3
通院せず	31	1.8	1.8
通院不要	39	2.2	2.3
通院不明	63	3.6	3.7
死亡	26	1.5	1.5
合計	1701	96.4	100.0
欠損値 特定不能	4	.2	
システム欠損値	60	3.4	
合計	64	3.6	
合計	1765	100.0	

表 15 長期在院理由 1=症状改善せず

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 0	1615	91.5	91.5
1	150	8.5	8.5
合計	1765	100.0	100.0

表 16 長期在院理由 1=症状不安定

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 0	1662	94.2	94.2
1	103	5.8	5.8
合計	1765	100.0	100.0

表 17 長期在院理由 1=身体疾患

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 0	1725	97.7	97.7
1	40	2.3	2.3
合計	1765	100.0	100.0

表 18 長期在院理由 1=生活能力が回復せず

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 0	1649	93.4	93.4
1	116	6.6	6.6
合計	1765	100.0	100.0

表 19 長期在院理由 1=家族の受け入れの問題

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 0	1635	92.6	92.6
1	130	7.4	7.4
合計	1765	100.0	100.0

表 20 長期在院理由 1=退院先が見つからず

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 0	1707	96.7	96.7
1	58	3.3	3.3
合計	1765	100.0	100.0

表 21 長期在院理由 1=その他

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 0	1756	99.5	99.5
1	9	.5	.5
合計	1765	100.0	100.0

表 22 診断名と長期在院理由（複数回答）

入院長期化の理由	主たる精神疾患					合計
	統合失調症	うつ病	躁うつ病	アルコール	認知症	
症状改善せず	76 (9.5%)	8 (4.6%)	4 (3.1%)	3 (2.6%)	42 (18.7%)	133 (9.2%)
症状不安定	61 (7.7%)	3 (1.7%)	3 (2.3%)	3 (2.6%)	14 (6.2%)	84 (5.8%)
身体疾患の存在	15 (1.9%)	1 (0.6%)	2 (1.6%)	2 (1.7%)	16 (7.1%)	36 (2.5%)
生活能力が回復せず	60 (7.5%)	1 (0.6%)	1 (0.8%)	5 (4.3%)	34 (15.1%)	101 (7.0%)
家族の受け入れの問題	66 (8.3%)	4 (2.3%)	3 (2.3%)	4 (3.5%)	35 (15.6%)	112 (7.8%)
退院先が見つからず	23 (2.9%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	4 (3.5%)	20 (8.9%)	48 (3.3%)
その他	4 (0.5%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	2 (0.9%)	8 (0.6%)

表 23 対象患者の治療状況

	度数		平均値	中央値	最頻値	標準偏差	最小値	最大値
	有効	欠損値						
在院日数（17 ヶ月追跡）	1528	237	91.48	60	15	92.58	5	515
在院日数の常用対数（17 ヶ月追跡）	1528	237	1.76	1.78	1.18	0.44	0.70	2.71
入院時年齢	1749	16	52.02	52	55	18.75	11	101
前回退院からの月数	1058	707	30.26	6	1	62.04	0	504
入院時精神症状重症度	1731	34	4.38	4	5	1.18	1	6
身体拘束合計日数	1391	374	3.35	0	0	21.27	0	365
保護室隔離合計日数	1462	303	9.45	0	0	31.41	0	485
拘束・保護室合計日数	1372	393	11.89	0	0	39.10	0	492
退院時精神症状重症度	1632	133	2.80	3	2	1.20	1	6
再入院までの月数	508	1257	5.51	4	1	5.25	0	30

表 24 入院前後の状況

入院直前の生活		入院時病棟		退院直後の生活	
家族と同居	1089 (61.7%)	救急料	66 (3.7%)	家族と同居	913 (51.7%)
単身生活	295 (16.7%)	急性期	324 (18.4%)	単身生活	200 (11.3%)
施設等入所	124 (7.0%)	精神一般	1078 (61.1%)	施設等入所	150 (8.5%)
他院精神科入院	76 (4.3%)	精神療養	150 (8.5%)	他院精神科入院	69 (3.9%)
他科入院	150 (8.5%)	その他	24 (1.4%)	他科入院	113 (6.4%)
その他	21 (1.2%)			死亡	24 (1.4%)
				その他	16 (0.9%)
入院直前の精神科治療		在院中の行動制限		退院直後の精神科通院	
自院通院	880 (49.9%)	身体拘束	178 (10.1%)	自院通院	964 (54.6%)
他院通院	339 (19.2%)	隔離	481 (27.3%)	前医通院	155 (8.8%)
他院入院	140 (7.9%)			他院通院	158 (9.0%)
無	357 (20.2%)			通院せず	31 (1.8%)
不明	31 (1.8%)			通院不要	39 (2.2%)
				不明	63 (3.6%)

図1 平均残存率と退院率

(別紙4)

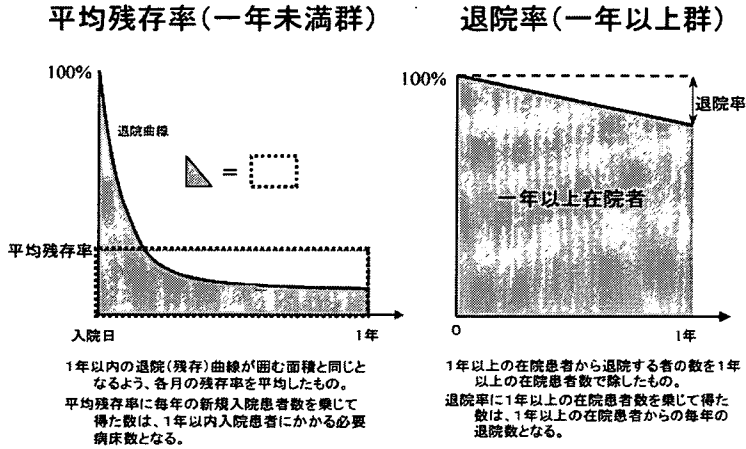


図2 疾患別入院期間

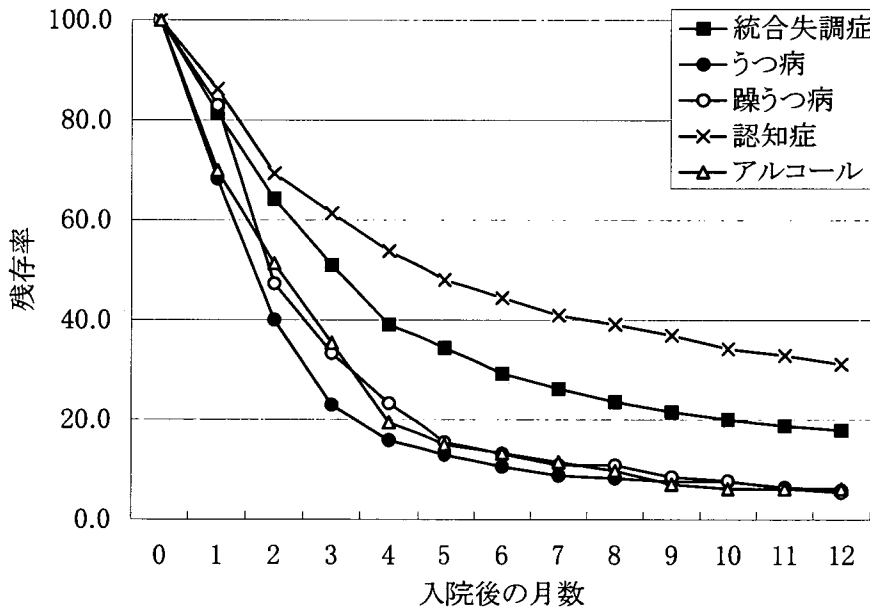
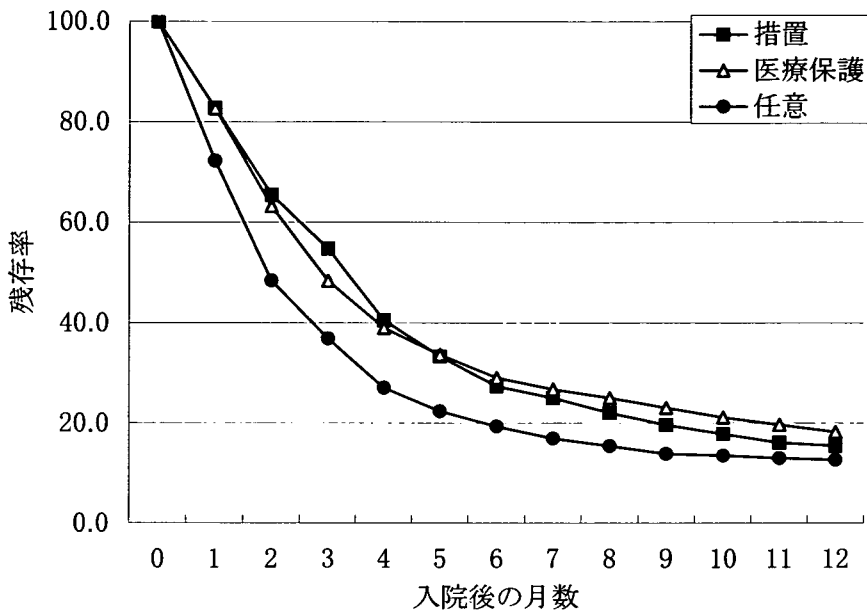


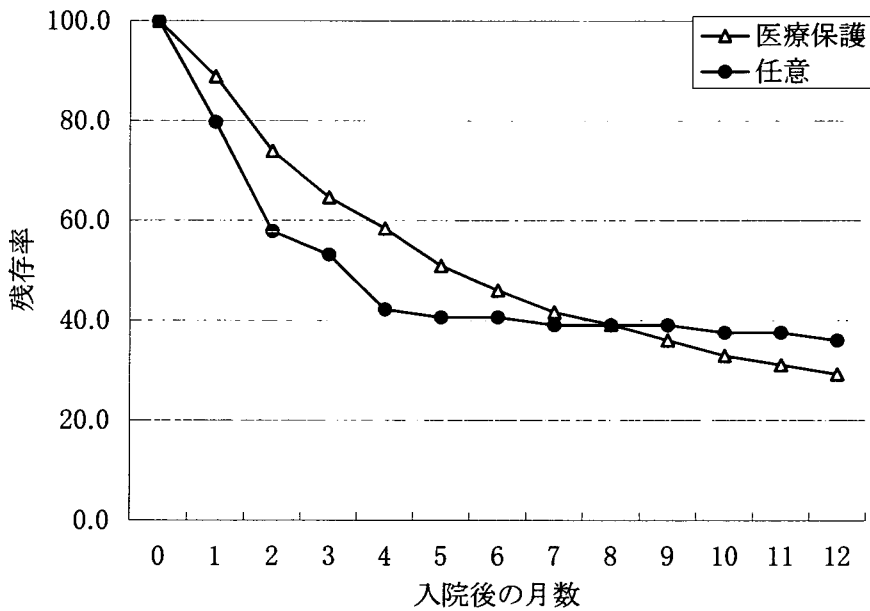
図3 入院形態別入院期間（全体）



3ヵ月退院率(%)

措置	45.2
医療保護	51.6
任意	63.1

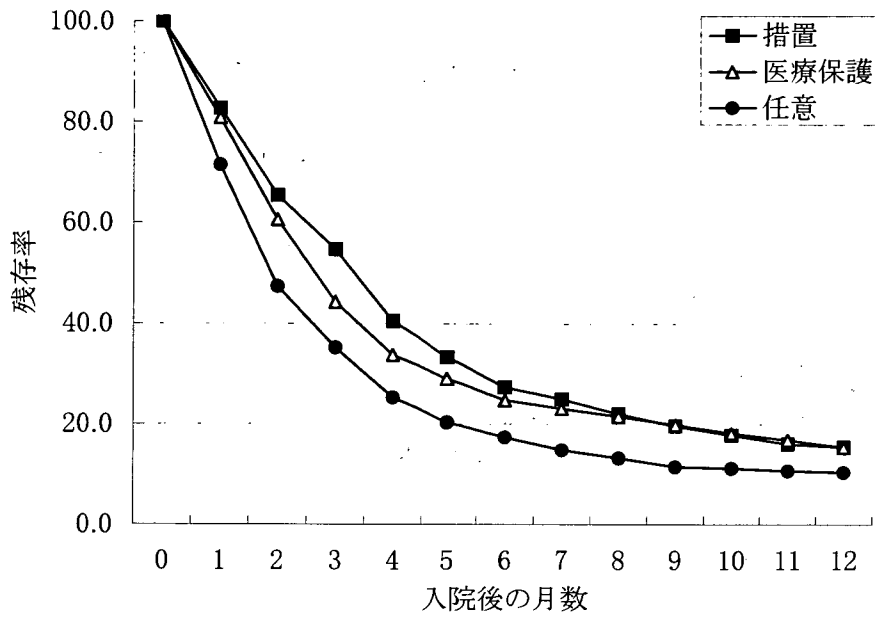
図4 入院形態別入院期間（認知症のみ）



3ヵ月退院率(%)

医療保護	35.4
任意	46.9

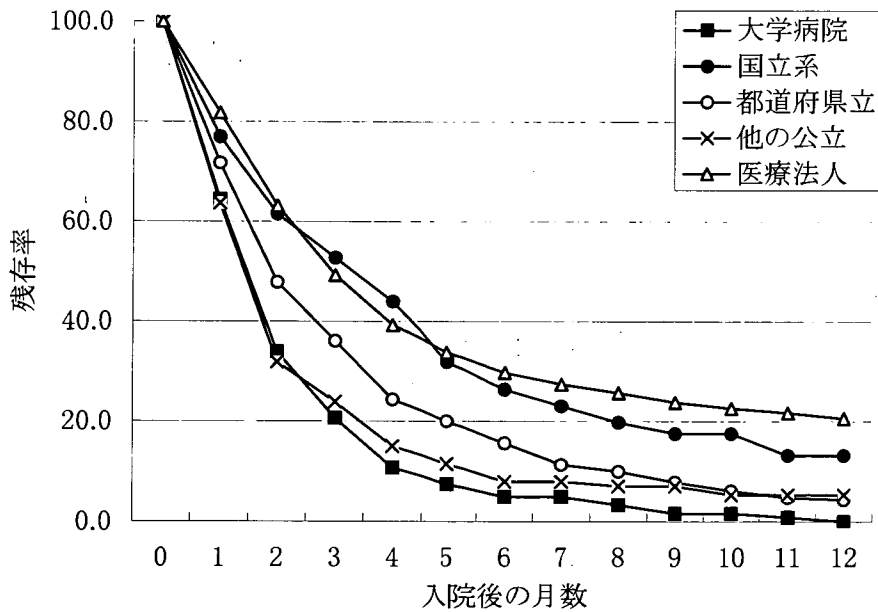
図5 入院形態別入院期間（認知症以外）



3ヵ月退院率(%)

措置	45.2
医療保護	55.7
任意	64.8

図6 設置主体別入院期間



3ヵ月退院率(%)

大学病院	79.3
国立系	47.3
都道府県立	63.9
他の公立	76.1
医療法人	50.8

<資料1>

患者個票 任意入院-No.()

★ 断りなき場合、いずれか1つを○で囲んで下さい。
 ★ ()には記入、□には該当なら✓をお願いします。
 ★ 反転表示項目は必ず医師の方がご記入下さい。

入院日	平成()年()月()日	退院日	平成()年()月()日 or □在院中	
性別	1 男 2 女	入院時年齢	()歳	
入院時間帯	1 時間内 2 日中だが時間外 3 夜間	入院時の同伴者(すべて)	1 無 2 家族・親族 3 警察官 4 その他() 5 不明	
入院時	貴院精神科受診歴	1 無 2 有 3 不明	他院精神科受診歴	1 無 2 有 3 不明
	精神科入院歴	1 無 2 有 (前回の退院は約()年()ヵ月前 or □不明)	3 不明	
	入院直前の生活	1 家族と同居 2 単身生活 3 施設等入所 4 他院精神科入院 5 (貴/他院)他科入院 6 その他()		
	入院直前の精神科受診	1 無 2 貴院通院 3 他院通院 4 他院入院 5 不明		
	状態像(すべて)	1 抑うつ 2 躁 3 幻覚妄想 4 精神運動興奮 5 意識障害 6 その他()		
	自傷	1 無 2 有	暴力	1 無 2 有 [対象 □家族・親族 □医療機関職員 □その他]
	器物損壊	1 無 2 有	その他の触法行為	1 無 2 有()
	精神症状重症度	1 2 3 4 5 6 [選択肢の内容は「回答方法の説明」をご参照下さい。]		
	病棟	1 精神科救急科 2 急性期治療 3 精神一般 4 精神療養	身体拘束	1 無 2 有
		5 老人性認知症 6 その他()	保護室隔離	1 無 2 有
入院中	主たる精神疾患	1 統合失調症 2 うつ病 3 躁うつ病 4 認知症 5 アルコール依存症 6 その他 [ICDコード: F()←1桁]		
	入院加療を要する身体疾患の対応	「病名/対応法番号」で記入 1: 他科受診 2: 転科 3: 転院 4: 手術 5: その他 (例: 胃がん/2,4) () / () () / () or □該当なし		
	身体拘束合計日数(含部分開放)	()日	保護室隔離合計日数(含部分開放)	()日
	抗精神病薬の点滴の実施	1 無 2 有	電気痙攣療法の実施	1 無 2 無痙攣 3 有痙攣
	非身体療法(すべて)	1 集団精神療法 2 作業療法 3 SST 4 その他()		
	入院形態の変更	内容 H()年()月()日 H()年()月()日 H()年()月()日 1 無 2 有 ()入院に変更 ()入院に変更 ()入院に変更		
退院時(在院1年未満) / 入院1年後	精神症状重症度	1 2 3 4 5 6 [選択肢の内容は「回答方法の説明」をご参照下さい。]		
	処方内容	抗精神病薬()種類 抗うつ薬()種類 抗不安薬()種類 睡眠(導入)薬()種類 抗パキンソ薬()種類 その他()種類 ※このうち主剤の種類と投与量(一般名:)を()mg/日		
	病棟処遇	1 開放 2 閉鎖	生活保護受給	1 無 2 有
	障害年金受給	1 無 2 有	退院直後の生活	1 1年以上在院 2 家族と同居 3 単身生活 4 施設等入所 5 他院精神科入院 6 (貴/他院)他科入院 7 死亡 8 その他()
	退院直後の通院先	1 1年以上在院 2 貴院 3 入院前に通院していた他院 4 その他の医療機関 5 通院必要だが通院せず 6 通院不要 7 通院の有無は不明 8 死亡		
	1年以上在院の理由(すべて)	1 1年未満で退院 2 病状改善せず 3 病状不安定(再発しやすい) 4 身体疾患 5 生活能力が回復せず 6 家族の受け入れの問題 7 退院先が見つからず 8 その他()		
	デイケア(含ナイトケア・ショートケア)の利用	1 今も在院中 2 無 3 有 4 不明		
	精神科再入院	1 今も在院中 2 無 3 有(退院の約()ヵ月後 or □不明) 4 不明		

<資料2>

桜ヶ丘記念病院における平成18年（平成18年1月1日～平成18年12月31日）の退院患者の分析－全例と入院期間1年以上の退院者との比較－

（資料提供：桜ヶ丘記念病院 岩下覚）

1. 桜ヶ丘記念病院の病棟構成

全12病棟→全11病棟（平成18年2月1日に1病棟廃棟）

- 1-1 (110) 50床 男女 閉鎖（老人性痴呆疾患治療専門病棟）
- 1-2 (120) 50床 男 開放（アルコール性疾患治療専門病棟）
- 1-3 (130) 60床 男女 閉鎖（身体合併症治療専門病棟・精神療養病棟）
- 1-4 (140) 60床 男女 閉鎖40床+開放20床
- 2-1 (210) 51床 男 開放（精神療養病棟）→平成18年2月1日廃棟
- 2-2 (220) 51床 女 開放（精神療養病棟）
- 2-3 (230) 70床 男女 開放
- 2-4 (240) 51床 男 開放（精神療養病棟）
- 3-1 (310) 60床 男 閉鎖（精神療養病棟）
- 3-2 (320) 70床 男 閉鎖
- 3-3 (330) 60床 女 閉鎖（精神療養病棟）
- 3-4 (340) 70床 女 閉鎖

平成19年12月10日現在合計652床（閉鎖410床、開放242床-開放率37.1%）

*上記のうち認知症、アルコールをのぞく急性期の患者は主に1-4、3-2、3-4の3病棟で受け入れている。

*1-3病棟は“身体合併症治療病棟”という位置づけであり、必要に応じて他の病棟から身体合併症を持つ患者を転棟させる。

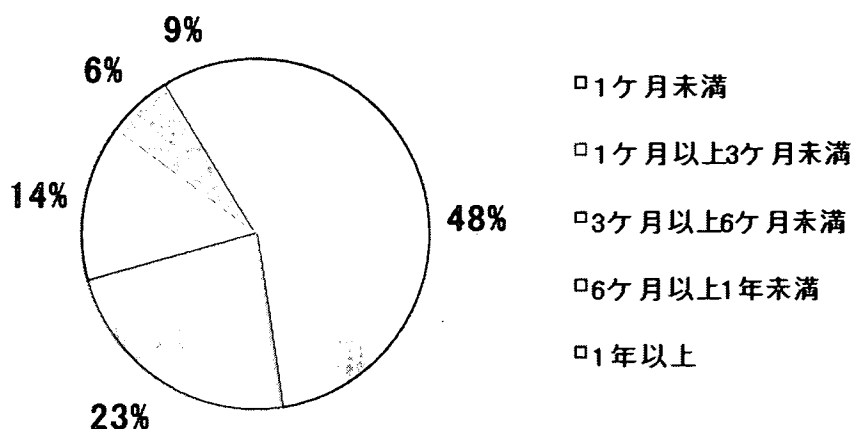
2. 平成18年における退院状況

平成18年1月1日～平成18年12月31日の期間における総退院数は896件であった。

その、入院期間別内訳は下記の通り。

入院期間	退院数
1ヶ月未満	427
1ヶ月以上3ヶ月未満	206
3ヶ月以上6ヶ月未満	130
6ヶ月以上1年未満	55
1年以上	78
総計	896

全退院患者(N=896)入院期間別内訳



*入院期間1年以上の退院者は、上記の如く総数896人中78人(約9%)であった。

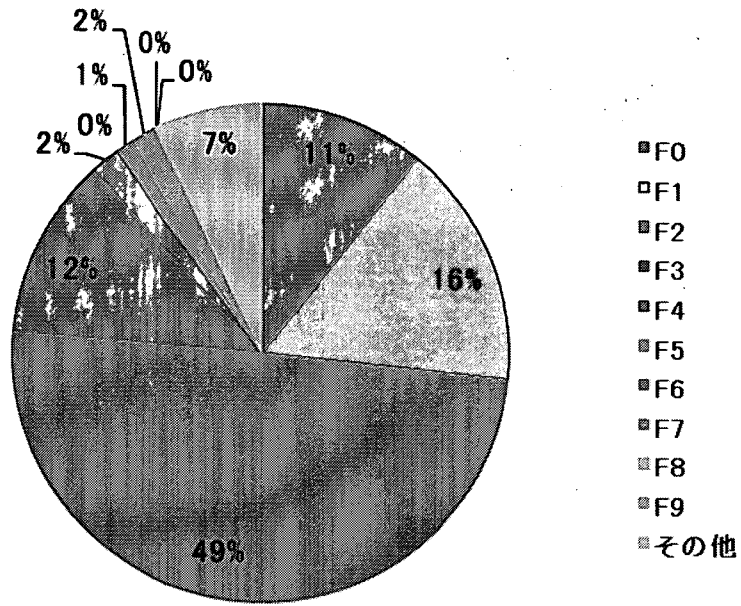
*入院期間1ヶ月未満の中には1日程度の短期入院を定期的、あるいは頻回に反復している例が含まれている。

3. 全退院患者896名と入院期間1年以上の退院患者78名の比較検討

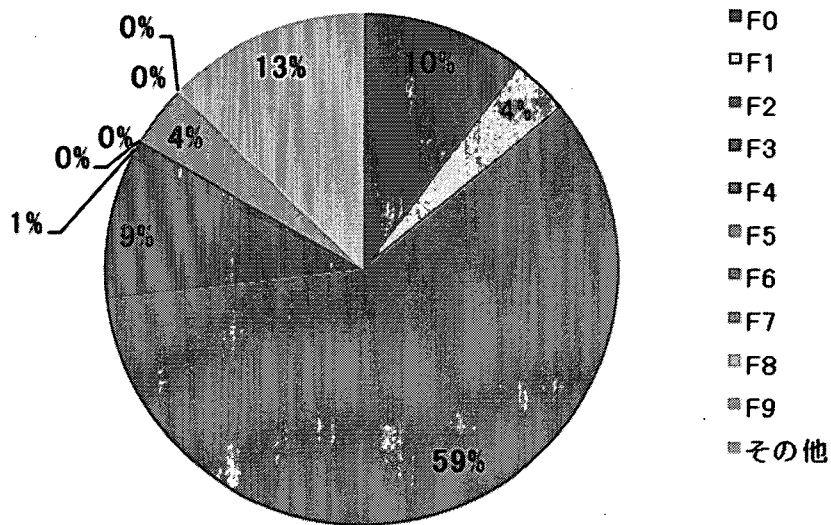
(1) 病名

病名	全例	入院1年以上
F0	96	8
F1	143	3
F2	445	46
F3	105	7
F4	18	1
F5	0	0
F6	11	0
F7	15	3
F8	2	0
F9	0	0
その他	61	10
総計	896	78

全退院患者(N=896)病名別内訳



入院期間1年以上の退院者(N=78)病名別内訳

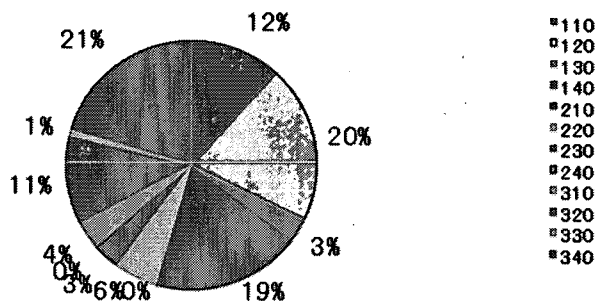


*入院期間1年以上では、アルコール関連疾患をはじめとするF1の比率が少ない。

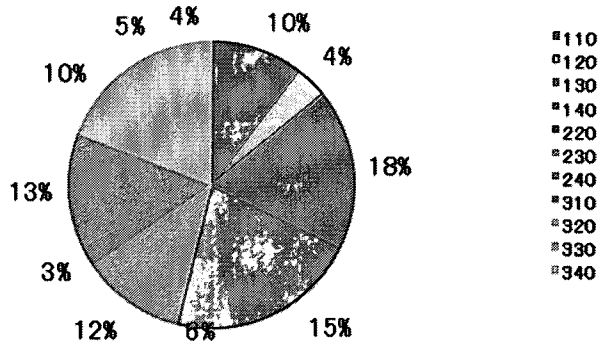
(2) 退院病棟

病棟名	全例	入院1年以上
110	104	8
120	184	3
130	26	14
140	171	12
210	3	0
220	50	5
230	29	9
240	3	2
310	32	10
320	103	8
330	7	4
340	184	3
総計	896	78

全退院患者(N=896) 病棟別内訳



入院期間1年以上の退院者(N=78) 病棟別内訳

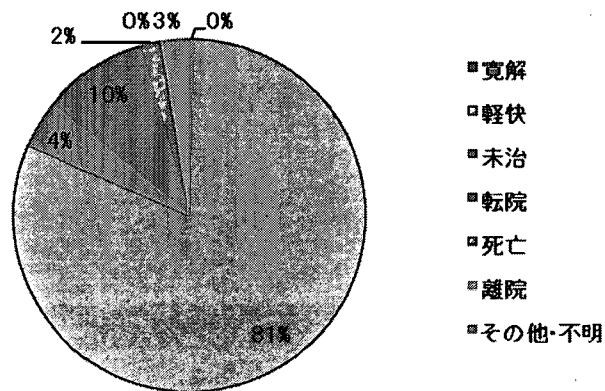


*入院期間1年以上では全例に比して1-3病棟（合併症治療病棟）からの退院のしめる割合が高くなっている（1年以上-18%、全例-3%）。

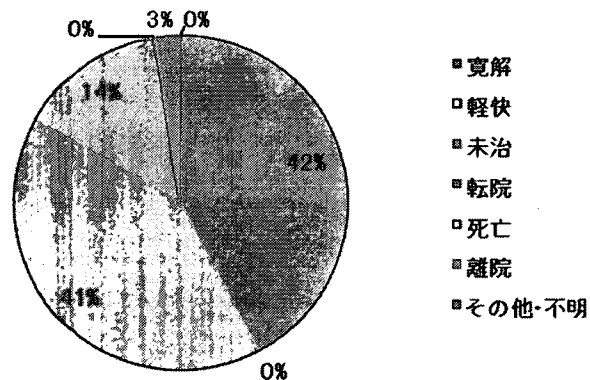
(3) 退院時転帰

転帰	全例	入院1年以上
寛解	3	0
軽快	728	33
未治	39	0
転院	85	32
死亡	18	11
離院	1	0
その他・不明	22	2
総計	896	78

全退院患者(N=896)“転帰”別内訳



入院期間1年以上の退院者(N=78)“転帰”別内訳



*1年以上の入院者では全例に比して“転院”(1年以上-41%、全例-10%)、及び“死亡”(1年以上-14%、全例-2%)の比率が高く、“軽快”(1年以上-42%、全例-81%)の比率が低い。

